


協働のまちづくり活動支援事業（中間報告）

実施事業名	「プレーパーク」を楽しもう！～子どもの「遊び」の現状を考える～		
団体（グループ）名	生活クラブ江別	代表者名	鈴木 恭子

事業目的
<p>子どもたちの「遊び」の現状として三問（サンマ）が必要と指摘されています。この3つの問とは、（遊ぶ）時間、（遊べる）空間、（遊ぶ）仲間のことです。ゲームやスマホ、iPadなど、子どもに早い時期から与える社会状況からも、子どもが自ら感じとり遊びとして没頭する経験が少なくなりました。これは子どもたちだけの問題でなく、親そして今や地域の大人も繋がって子どもたちの「遊び」の環境を確保し、見守って必要があります。昨年度のこうした遊びの現状と課題を学ぶ機会をステップに、本年度は実戦に移しプレーパークを開催すること、そして、その学びの中から子どもの居場所作りとして常設プレーパークの在り方を模索したいと道外で運営されている常設プレーパークを見学し3年目の事業へと繋がります。</p>

事業内容
<p>①プレーパーク開催 大麻沢町公園にてプレーパークを実施。夏休み最終日は大雨予報となり、子どもの参加は少なかったものの、運営する大人も遊びに参加し、プレーパークを体験することで今後の在り方や見守りの仕方、子どもの遊びの変化について語り合うことができました。 会場近所の回覧板にチラシを入れてもらうなど地域に密着した事業を目指し、雨天決行した事を知った方が、次回は是非参加したいと声が上がったこともよかったです。9月開催は地震のため見送りました。</p> <p>②プレーパーク視察 世田谷区の羽根木プレーパークと川崎市の子ども夢パークを日帰りで視察しました。会の方に案内いただき、利用する子どもたちの様子、運営上での問題点や子どもの現状を知る貴重な時間となりました。どちらも住宅街にあるため、焚き火や開園時間など地域住民とコミュニケーションをとりながら課題を解決していることから、運営には地域の理解を得ながら進めることが大切とアドバイスをいただきました。 また、プレーパークの運営には区や市の補助を得ていますが、羽根木では教育として理解されないプレーパークのような「遊び」には予算がつきづらいと話され、赤字にならないようパーク運営以外にも活動を広げなければならないことは大変残念で、常設を考えた場合には川崎市のように行政と協働のあり方をしっかり共有する必要があると感じました。</p>

事業進捗状況	
<p>①プレーパーク開催（チラシや写真参照） 8/16（木）参加 子ども2名 大人15名 ・告知 大麻地区の小学校6校にチラシを配布。近所の回覧板にも入れてもらう ・遊び タープを張り木の葉の色ぬり、草の上のソリ滑り、崖登りなど。 子どもと一緒に大人も体験し楽しさを共有できた。 ・雨を楽しむ子どもの様子から、プレーパークは全天候で楽しめる事業である ・積極的に運営に関わりたいと情報共有を希望する方が出ている</p> <p>②プレーパーク視察 9/27（水）（写真参照） ・羽根木プレーパーク視察 ・11：00～11：30 近所の保育所の利用を見学 ・11：30～13：40 瀧久雄さん（世話人）に運営やプレーパークの役割などを伺う ・子ども夢パーク視察 ・16：30～17：30 光富真希子さん案内による子ども夢パーク施設の見学</p> <p>④その他 市議会への陳情 11/16 江別子どもの権利条例制の制定を求める陳情を提出し審議をお願いした</p>	

事業の成果・今後について	
<p>①プレーパーク開催 ・雪遊びを主体としたプレーパークの開催（1月） ・プレーパークの認知の高まりを期待し本事業の運営状況やイベント開催情報など、SNSを利用した情報発信にも取り組む</p> <p>②プレーパーク視察（実施済み）</p> <p>③プレーパークの認知をあげるパンフレット作成（12月から2月）</p> <p>④子どもの居場所として常設プレーパークを視野に入れた市議会へのアピール活動</p>	